

「今、育みたい大切なこと」

ー子育て（子育て）って素晴らしい！ー

上北条小学校 藤井隆弘

- 1 はじめに
 - あいさつ
 - 上北条小学校のめざす子ども像
 - 資料（プレゼン）

- 2 子どもって素晴らしい！
 - 今のかがやき
 - 親（家族）、保育士（教師）、地域の人
 - 「教師にとって最高の教師は生徒である」

 - ほめる、認める
 - ・ほめすぎることはない
 - ・子どもの成長する力を信じる
 - ・素直な子はのびる

 - 叱る
 - ・叱ること

 - ・叱り方
 - 具体的に、短く
 - 行為を叱る

 - よい生活習慣をつける
 - ・継続は力なり
 - ・個性と社会規範（ルール）
 - ・必要な干渉と不必要な干渉
 - 「教え、しつける」と「押しつける」

 - 手は離しても目は離さない
 - ・一人でできることを増やす
 - ・「信頼」と「放任」
 - ・子育ての目標＝〇〇からの自立
 - ・子育ては子育て

 - 「子は親の鏡」
 - *子は親の鏡（ドロシー・ロー・ノルト）

 - だから子育てって素晴らしい

「今、育みたい大切なこと」

子どもたちが本来すばらしさを持っていることと、子育ての楽しさを感じていただく
今わが子に伝えることは何か、
保護者一人で抱え込まず一緒に考えていくことの大切さを共有したい。

1 はじめに

- ・自己紹介
市内明倫地区生まれ 3年まで明倫小に通う。
河北小（当時は上北条地区の子どもも通っていた）
河北中 高校卒業後 東京で勉強 会社（スーパー）に勤務 約5年勤務後退職。
- ・30歳前に、他県（愛知県）で教師となる。
初任の学校は1200人の子どもがいた。 6年間勤務した。
- ・縁あって 鳥取県に教師として（試験を受け）帰ってきた。
この間 12回の引っ越し、 おかげで様々な土地で様々な人と出会えた。
三朝町の小学校（9年間） 倉吉市内の小学校（2年間）で勤務。
- ・倉吉の教育委員会勤務（5年7ヶ月）
3つの部署（教育総務課、同和教育課、学校教育課）で働く
多忙であったが、たくさんの勉強をさせてもらった
- ・明倫小学校の校長として 4年7ヶ月 上北条小学校3年目
- ・同居の娘、離れて暮らす娘（結婚して孫も）、大学3年生の男の子の父親
- ・85をすぎた父と母、それに連れ合い（妻）
（嫁、妻、女房等という言い方は好ましくないらしい（男女共同の視点から）

2 子どもってすばらしい！

○今のかがやき

- ・子どもたちの一つ一つの動きや話を聞いているとすごいなあ、このまますくすく育つたらいいなあ 等考える
- ・校長は 学校全体を毎日見て教室を回っているので子どもの変化に気づきやすい。
また、1ヶ月、1学期間、1年といったサイクルで見ると「こんなことができるようになった」「あの子このごろ調子いいね」といったことが分かる。

「教師にとって最高の教師は生徒である」

- ・教師は子どもを教育（教え、育てる）しているが、実は子どもたちを通して教師として育ててもらっている。
- ・毎日、いろいろな子が生活する学校では様々なトラブルやうれしい出来事が起きている。それをどうとらえて扱っていくのか。何を大事にして、どの辺で扱うのか。教師にとっても毎日が学習であり、対応していくことで教師として成長していく。
- ・「教師」を「親」と置き換えてもいいと思う。いや、親とは限らない。おばあちゃんかもしれないし、もっと他の人かもしれない。子育てをする者になりたい。そう聞き取って下さい。
- ・子どもの心を知れば、親も、子どもとともに成長し、学ぶことができる。
子どもは、毎日親から学んでいる。親も毎日子どもから学んでいる。ところが、時に

心の余裕がなくなったり、忙しさにかまけて丁寧さをなくしてしまったりすることもある。

- ・子どもたちのすばらしい力をきちんと伸ばしていくためには、特に子どもが小さければ小さいほどどう関わっていくのか、大切。
下手をすると、子どもたちの力を伸ばし切れていないばかりか、芽を摘んでいたり、弊害となっていたりすることもあるのではないかな。

○ ほめる、認める

- ・子育ての基本はやはり子どもを肯定的に見ることだと考える。ほめること、認めることは、その子・人をきちんと見ていないとできない。
- ・大人でもほめられて気分が悪いはずはない。でも、何でもかんでもほめればいいと言うことではない。相手によっては見透かされてしまう。
- ・ほめすぎることはない
- ・何でもかんでもということはありませんが、子どもにとってはほめてもらうことが伸びる源だ。
- ・できれば、具体的なほめ方で
いい字～この角の払いが勢いがあるってすばらしい
ほらみんな見て ○○くんの△△ってすごいね。
- ・**子どもの成長する力を信じる**
子どもは、ほんとにすごい力を発揮する。吸収力がすごい。
「はえば立て、立てば歩めの親心」ということばもあるが、生まれたばかりの子どもに対しては成長がわかりやすいし、周りもそうした日々の成長に関心が高い。
- ・他の人から言われることも結構参考になる。他の保護者、先生、近所の人。
そういう時は、必ず「○○さんがこんなことをほめていたよ。」と伝える。子どもにとってもいいし、○○さんとの人間関係もよくなる。

・素直な子はのびる

- ・素直な人は、自分の能力や努力だけでは、物事は進まないことを理解する。感謝の気持ちも持てる。
- ・保護者としても、子どものよい面はしっかりとほめてほしい。

○ 叱る

- ・叱ること
- ・子育てをする中では、ほめることは大切だが、これはだめなこと、こう望んでいるという意味で叱る場面も当然出てくる。
- ・「怒る」感情の爆発、「愛情ではない嫌み、けなし」手や足が出るのではないが、時には暴力と同じこともある。
- ・「君のことが好き」という気持ちが伝われば叱ることの意味が伝わる。
＜子供叱るな来た道だもの、年寄り笑うな行く道だもの、
来た道行く道二人旅、これから通る今日の道、通り直しのできぬ道
作者は不詳。妙好人（＝浄土宗の信徒の誰か）という。永六輔が著作『大往生』で、愛知県の犬山で見たビラの言葉を広めたという。＞
- ・ポイントは、「具体的に、短く」そして「行為を叱る」ことである。
- ・子どもに向かって叱っていると、つい「本当に分かったのか」不安になり、くどくどと繰り返したりして愚痴やその子のほかのことまで言うてしまうことがある。
「大体おまえは」「この前もそうだけど・・・」 等

関係ない！いい加減にして！ 一一折角の有効な叱りが反発だけしか残らない。

(今考えると自分もやっていた気がする。…反省)

- ・叱ることについて大人（関係しているもの）がどこかで同じ物差しがないとだめ。子どもにとっては逃げ道となる。時には、息を抜かせることも大切だが、一つの行為に対して父親は厳しく叱り母親は知らんぷりだったり、違う反応をすれば子どもは何がなんだか分からず混乱する。それを見ていたお祖父さんとお祖母さんがものをやったりする。何がなんだか分からず、家族の不信感だけが残る。
- ・時には、叱ることについて（ほめることも同様）大人の作戦会議を持つことも大切。そして、複数の大人がいる場合は叱り役と聞き役がいてもよい。

・叱り方

「しかり方の十か条」

- いけないことはいけないと、わかりやすく **本気でいう**
- 一回で治らなければ次の機会にも、粘り強く
- 子どもの人格そのものを否定するのではなく、**行為を否定する**
- 日によってしかったりしからなかったり、気分次第にならない、一貫性を持つ
- 何がいけないことなのか、大人（家族・夫婦）で**一致させる**
- どうしてほしいのか、具体的に示す
- 他の子との比較やいやみを避ける
- ひとつのことについてしかり、話を広げない
- 反省がみられたらくどくど繰り返さず、引き際を早く
- 暴力は子どもとの関係を破壊してしまうことを忘れずに

大阪府教育センター「子育てのヒント」より

○ よい生活習慣をつける

・個性と社会規範（ルール）

- ・大切なこと、基本的なことはやはり大人がしっかりと教えること
このことも子育てのルールづくりを 家庭でも確認してほしい
「早寝 早起き 朝ご飯」 よく言われる言葉。
やはり本当、生活・学習全てに関わってくる。

・必要な干渉と不必要な干渉

「教え、しつける」と「押しつける」

根気のいる作業である。子どもとしっかり関わりながら身につけさせなければならない

「教え、しつける」のに大切なことは「余裕を持つ」「焦らず待つ」ことである。すぐできないこともある。あきらめずに続けることも大切。子どもの成長を信じて「今できなくても、そのうちできるようになる」とゆとりを持って接する。焦ったり、いらいらして「もうこの子は」「だめな子だ」と思って、あきらめたり押しつけたりするのは禁物。

・継続は力なり

当たり前のことだが、続けてやっているとできることがある。

そのことは、大いに認めてほめてほしい。（できるようになったことはもちろんだが、できるようになったその子どもの気持ち・心がけを）

○ 悪口は言わない

・子どもは見ている、聞いている

子どもは親（大人）の言うことやすることをしっかり分かっている。モデルだから学校では教師の良さも性格も大きく（高学年にも）なるとわかって、それにあわせて対応している面がある。中学生、高校生になるとなおさらである。

○ 手は離しても目は離さない

子育て4訓（山口県の教育者のことば）

1 乳児はしっかり肌を離すな

2 幼児は肌を離せ、手を離すな

3 少年は手を離せ、目を離すな

4 青年は目を離せ、個々を離すな

（子ども一人一人発達段階が異なるが・・・）

・一人でできることを増やす

・「信頼」と「放任」

・子育ての目標＝〇〇からの自立

・子育ては子育て

5 おわりに

○ 「子は親の鏡」

*子は親の鏡（ドロシー・ロー・ノルト）

子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげた家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「可愛そうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

ほめてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、

子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

- ・10年ほど前に出版された本。22カ国語に翻訳され、世界中で多くの共感を呼び、ミリオンセラーとなった。
- ・ノルトさんは、3人の子ども、2人の孫をもつ。40年以上家族関係について授業や講演をし、実践から考えをまとめた。数年前になくなった。
同じような本で、アメリカインディアンの教えといったものもある。子育ての一つのバイブルとも言えるのではないか。

○ だから子育てってすばらしい

- ・「うちって仲のいい方だよな？」連れ合いが、最近子ども（3人とも同じようなことを言われたらしい）
「そうだね」（連れ合い）「お祖父さん、お祖母さんとも話するし・・・」（子ども）
・子どもにとっては、以前はあまり気にもしなかったことが、成長して他の様子を見る機会が増えたのか 「いい方だよな？」っという形で確認して、自分なりに納得しているようだ。
- ・子育てって大変だよ。いいことばかりじゃないし、時には腹の立つこと、いらいらすることもある。でも、この子のおかげでいろんなことを経験させてもらっている。また、子育てを通じてつながりもできてきた。この子がいなければ、きっと寂しい生活だと思うよ。
- ・親と子、子育てをする人、様々な関わりの中で育ち、互いに育っていることを心地よく思う関係を築きたい。
- ・わが娘の結婚式の時のあいさつ。新郎新婦の主賓の言葉の中にいずれも「愛情をいっぱい受けて育った子だと思う」というフレーズがはからずもあった。うれしい言葉であった。

子育てに手をかけてください。手をかけた分だけ喜びがあるような気がする。

- ・子育ては手がかかる。手がかからなくなったら金がかかる。
- ・（独立などして）金がかからなくなっても、いつまでも心（気）にかかる。
- ・子どもたちは本来すばらしさを持っている。
- ・子育ての楽しさを感じてほしい。
- ・今わが子に伝えることは何か一人一人が考えてみよう。
- ・そして、一人で抱え込まず同じ悩みを持つ親（保護者）同士と一緒に考えていくことの大切さを共有したい。

平成24年度新入学児童保護者説明会(平成24年2月15日)から

